

(総括評価表2)

未来へつなぐ資産の創造 ~未来の礎を築く~

1 実現に向けた施策

施策4 災害に負けない基盤づくり

【具体的な施策】

- ① 幹線道路ネットワーク等の復旧・強靱化
- ② 地域を支える公共交通網の復旧・整備
- ③ 社会資本等の強靱化
- ④ 防災体制の充実・強化
- ⑤ 防災の「知」の集積と「記憶・記録」の継承・発信

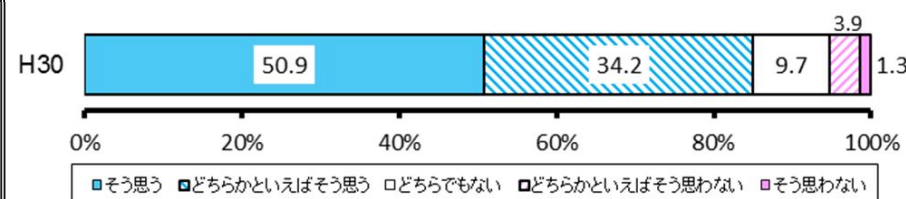
施策5 地域の特性を活かした拠点・まち・観光地域づくり

【具体的な施策】

- ① 熊本都市圏東部地域等における復興のまちづくり
- ② 広域防災拠点機能の更なる充実・強化
- ③ 地域資源を活かした観光地域づくり
- ④ 地域力を高める広域連携の推進
- ⑤ 人口のダム効果を活かした地域づくり
- ⑥ 交通結節点の拠点性向上
- ⑦ 持続可能な地域づくり
- ⑧ 移住・定住の促進

○県民アンケート結果

「未来へつなぐ資産の創造 ~未来の礎を築く~」
という取組みの方向性により施策を展開できているかどうか



2 重要業績評価指標 (KPI) の動向

… H29年度の実績値で達成状況を評価する指標
 … 戦略策定時からH29年度までの実績値の合計で達成状況を評価する指標
 ※ 目標値を達成した指標は、「達成状況」欄に「☆」を記載

評価指標	戦略策定時 (H27)	H28実績値 (H29評価)	H29実績値 (H30評価)	戦略策定時との比較	目標値の達成状況を評価する実績値	目標値 (H31)	達成状況
施策4 災害に負けない基盤づくり							
① 被災した道路・橋梁(県管理分)の災害復旧事業の進捗率(国が復旧工事を代行している国道325号阿蘇大橋及び県道熊本高森線(俵山ルート)を除く) 【施策4-②と同一】	-	9.6	60.6	↗	60.6	100%	
幹線道路の整備進捗率(供用率) 【施策5-②、施策5-⑤と同一】	52.8%	52.8	52.8	⇒	52.8	76.9%	
② 被災した道路・橋梁(県管理分)の災害復旧事業の進捗率(国が復旧工事を代行している国道325号阿蘇大橋及び県道熊本高森線(俵山ルート)を除く) 【施策4-①と同一】	-	9.6	60.6	↗	60.6	100%	
道路網の整備率 【施策5-⑥と同一】	83.0%	83.5	84.7	↗	84.7	87.8%	
③ 被災した公共土木施設(県管理分)の災害復旧事業の進捗率(国が復旧工事を代行している国道325号阿蘇大橋及び県道熊本高森線(俵山ルート)を除く)	-	13.3	55.8	↗	55.8	100%	
橋梁点検実施率	34.3%	58.5	75.9	↗	75.9	100% (H30)	
トンネル点検実施率	-	70.0	94.8	↗	94.8	100% (H30)	
④ 熊本地震を踏まえたBCP策定市町村数	-	1	10	↗	10	45(全市町村)	
自主防災組織のうち防災訓練や防災巡視等を実施している組織の割合	40.3%	47.9	51.0	↗	51.0	100%	
避難行動要支援者に対する避難支援計画(個別計画)策定市町村数	13市町村 (H27.4.1)	25	37	↗	37	45(全市町村)	
⑤ 熊本地震に関する教訓等をアーカイブ化するための資料収集件数	-	5.1	6.0	↗	6.0	20万件	
施策5 地域の特性を活かした拠点・まち・観光地域づくり							
① 阿蘇くまもと空港利用者数 【施策12-①と同一】	323万人/年	298	334	↗	334	380万人/年	
② 平成28年熊本地震の経験を踏まえた訓練実施市町村数	-	0	27	↗	27	45(全市町村)	
幹線道路の整備進捗率(供用率) 【施策4-①、施策5-⑤と同一】	52.8%	52.8	52.8	⇒	52.8	76.9%	
③ 延べ宿泊者数 【施策10-①、施策10-②と同一】	720万人/年	677	【集計中】	-	【集計中】	800万人/年	
延べ外国人宿泊者数 【施策10-①、施策10-②と同一】	64万人/年	49	【集計中】	-	【集計中】	120万人/年	
市町村等が広域的に連携・協働して取り組むスクラムチャレンジ推進事業の実施件数	17件/年 (H26)11件/年	20	15	↗	52	50件/5年	☆
④ 県内における連携中枢都市圏及び定住自立圏の共生ビジョン等策定圏域数 ※県域を超える連携も含む	7圏域	7	7	⇒	7	8圏域	
広域連合・一部事務組合、地方自治法に基づく連携協約、機関等の共同設置等を活用した新たな市町村間の広域連携の件数	1件	2	3	↗	3	4件	
日本型直接支払の取組面積(実面積) (“多面的機能支払(農地維持支払)”+“中山間地直払”+“環境直払”の取組面積)	7.4万ha (H26)	7.5	7.5	↗	7.5	9.7万ha	
幹線道路の整備進捗率(供用率) 【施策4-①、施策5-②と同一】	52.8%	52.8	52.8	⇒	52.8	76.9%	
⑤ 企業立地件数 【施策8-③と同一】	35件/年 (H26)35件/年	21	46	↗	102	125件/5年	
企業立地件数のうち研究開発部門の件数 【施策8-③と同一】	6件/年	1	8	↗	9	10件/4年	
⑥ 道路網の整備率 【施策4-②と同一】	83.0%	83.5	84.7	↗	84.7	87.8%	
熊本駅周辺地域における居住人口の増加	2,973人 (H28.4.1)	2,975	2,985	↗	2,985	3,500人 (H32.4.1)	
⑦ 集落の維持・活性化にモデル的に取り組む地域数 【施策1-②と同一】	1地域/年 (H26)-	10	2	↗	13	27地域/5年	
中山間地域における農業振興ビジョン策定地区数	-	0	6	↗	6	11地区	
⑧ くまもと移住定住支援センター等への移住定住に関する相談件数	1,052件/年	1,326	1,448	↗	2,774	5,000件/4年	

3 平成29年度の主な成果・今後の課題や方向性

平成29年度の主な成果

今後の課題や方向性

【施策4】災害に負けない基盤づくり

道路、河川、海岸、砂防等の被災した公共土木施設の復旧工事を推進し、復旧対象1,422件のうち、H29年度末までに793件の工事を完了した。阿蘇地域へのアクセス道路については、村道長陽大橋ルートの開通とともに、国道57号北側復旧ルート及び国道325号阿蘇大橋ルート工事などを促進した。

幹線道路ネットワークについて、九州中央自動車道、南九州西回り自動車道等の着実な進捗とともに、中九州横断道路(竹田～阿蘇間)について第2回計画段階評価の実施など事業化に向けて促進した。また、熊本天草幹線道路の大矢野バイパスの供用を開始した。

南阿蘇鉄道の復旧について、国の新たな支援策が決定し、復旧工事に着手した。JR豊肥本線については、県の斜面对策のH32年度中の完了に向け、工事を進めた。

防災体制等について、大規模災害に対応可能な防災センター整備に関する調査・検討を実施した。被災庁舎の建替えが必要な8市町に対し、地方債活用への支援を実施し、2市町が建設に着手した。また、県・市町村の災害時業務継続計画(BCP)の見直し等を推進した。

発災3か月間の対応に関する検証報告書の書籍化とともに、発災4か月以降の取組みに関する検証結果の取りまとめを行った。さらに、熊本地震震災ミュージアムの実現に向けた基本方針を策定した。

引き続き、例年以上の膨大な工事を実施する必要があり、入札方法の見直しなどの不調・不落対策に取り組み、被災した施設の早期復旧を図る。

九州の縦軸・横軸のリダンダンシーの確保等を図るため、早期事業化及び整備促進に向け国に要望する。また、本渡道路は、用地取得及び橋梁工を推進する。

南阿蘇鉄道の復旧工事の着実な推進と利用促進を図るとともに、JR豊肥本線の早期復旧のため、国、県の斜面对策等とJRの災害復旧事業を連携して進める。

県の災害対応の拠点となる防災センターを県央広域本部庁舎との合築により整備を進める。被災市町村の建替えに向けて、引き続き支援する。また、県BCPの見直しと県受援・応援計画の策定に取り組むとともに、全市町村のBCP策定に向け支援を行う。

回廊型とする震災ミュージアムについては、中核拠点の具体化に向けた調査・検討を実施する。



地震直後



解体完了

宇土市庁舎の復旧状況



大矢野バイパス(天城橋)の開通(H30年5月)



長陽大橋ルートの開通(H29年8月)

【施策5】地域の特性を活かした拠点・まち・観光地域づくり

復興のまちづくりについて、益城町をはじめ熊本都市圏東部地域の発展と災害に強いまちづくりを牽引する取組みを支援するため、土地区画整理事業及び県道熊本高森線の4車線化を推進した。

広域防災拠点として、大規模災害時に集結する災害関係ヘリ運用に必要となる機能を持つ総合防災航空センターの運用を開始した。また、熊本県民総合運動公園陸上競技場(えがお健康スタジアム)及びグランメッセ熊本を全面的に使用再開し、併せて機能強化を推進した。

観光地域づくりについて、崎津集落の世界文化遺産登録実現に向け、海外諮問機関(イコモス)による現地調査対応等の取組みを推進した(H30年6月登録)。また、登録を見据えた旅行商品開発のためのモニターツアー等を実施した。

交通結節点の拠点性向上について、熊本駅部の在来線高架切替が完了した。また、八代地域が南九州の物流拠点となることを目指した「やつしる物流拠点構想」を策定した。

移住・定住の促進について、「くまもと移住定住支援センター」の相談員、関係機関との連携、熊本コネクションプロジェクトなどにより移住相談に対応した。東京で14回、大阪で1回、福岡で1回の相談会を開催した。

まちづくりを支援するため、土地区画整理事業や4車線化に向け、益城町等と連携し、関係者の理解のもと、用地取得等の取組みを推進する。

新機体のヘリの運航を開始した県防災消防航空隊と県警航空隊が連携・協力し、広域防災拠点としての役割を担えるよう、総合防災航空センターを運用する。

地域の特性や資源を活かした観光地域づくりのため、崎津集落をはじめとする文化遺産の保全管理、広域的な周遊観光の実現に向け、市町村が連携・協働する取組みへの支援や観光ルート開発に取り組む。

H33年の駅ビル開業を見据え、熊本市等と連携してにぎわい創出を推進する。また、構想の実現に向け推進チームを立ち上げ、地元市町と連携のうえ企業誘致や販路拡大などに向け取り組む。

県内の工業系高校出身者等をターゲットに、新たに名古屋での相談会を開催するなど、移住・定住を促進する。



切替前(古道踏切)



切替後

熊本駅部の在来線高架切替の状況



総合防災航空センター



天草の崎津集落

(総括評価表2)

未来へつなぐ資産の創造 ～未来の礎を築く～

1 実現に向けた施策

施策6 くまもとの誇りの回復と宝の継承

【具体的な施策】

- ① 熊本城をはじめとした歴史・文化の再生・継承
- ② 阿蘇の草原など自然・景観の再生・継承
- ③ スポーツを通じた熊本の誇りの継承と発信

2 重要業績評価指標 (KPI) の動向

 … H29年度の実績値で達成状況を評価する指標
 … 戦略策定時からH29年度までの実績値の合計で達成状況を評価する指標
 ※ 目標値を達成した指標は、「達成状況」欄に「☆」を記載

評価指標	戦略策定時 (H27)	H28実績値 (H29評価)	H29実績値 (H30評価)	戦略策定時 との比較	目標値の達成 状況を評価する 実績値	目標値 (H31)	達成 状況	
施策6 くまもとの誇りの回復と宝の継承								
①	文化財(国・県指定)の災害復旧事業の進捗率	—	36.0	47.0	↗	47.0	80.0%	
	世界遺産登録資産への来訪者数 (世界遺産暫定一覧表記載資産(崎津)を含む)	701,000人/年	451,478	406,334	↘	857,812	200万人/4年	
	県立文化施設の入場者数	934,877人/年	540,563	722,595	↘	722,595	100万人/年	
②	阿蘇の草原における野焼き面積	16,500ha	14,746	15,084	↘	15,084	16,500ha	
	地下水涵養量の増加	2,432万㎡	1,177	2,379	↘	2,379	3,500万㎡ (H30)	
	景観アドバイザーを活用した景観形成活動・事業の数	1件/年	1	15	↗	15	10件/年	☆
③	被災したスポーツ施設の災害復旧事業の進捗率	—	23.6	63.0	↗	63.0	100% (H30)	
	総合型地域スポーツクラブで活動しているクラブ員の数	16,475人	14,857	15,634	↘	15,634	18,000人	

【施策6】くまもとの誇りの回復と宝の継承

平成29年度の主な成果

今後の課題や方向性

熊本城や阿蘇神社をはじめとした被災文化財について、国・市町村等と連携して復旧を推進した。文化財復興支援としてH29年度末までに民間等から約37億円の寄附を受けた。また、熊本城の復旧に向け、熊本市の復旧基本計画策定を支援するとともに、復旧事業に係る市負担への支援制度を創設した。

歴史・文化の継承に向け、日本遺産に認定された菊池川流域の「米作り、二千年にわたる大地の記憶」について、ガイド養成のためのテキスト作成支援や旅行者に対する旅行商品造成の働きかけを実施した。

国の重要文化的景観に選定された阿蘇の草原など自然・景観の再生・継承に向け、牧野・牧道等の復旧やボランティア等野焼きの支え手確保等を図るとともに、新たな阿蘇山上給水施設の整備を完了した。

また、阿蘇くじゅう国立公園の受入環境整備として、アウトドア企業や地元団体との連携により、九州初となる草原景観を利用したジャパンエコトラックのルート認定を実現した。

Bリーグ(プロバスケット)やプロ野球のオールスターゲームを熊本で開催した。また、被災した藤崎台県営野球場及び熊本武道館を含む4施設が完全復旧した。

被災文化財の復旧について、引き続き、国に財政支援継続を求めるとともに、広く寄附を呼びかけ、市町村等と連携して早期復旧を進める。また、熊本市と連携して熊本城の復旧過程を見える化し、観光プログラムを作成する。

世界文化遺産の万田抗・三角西港について、地元市町村と連携し、資産の保安全管理等に取り組むとともに、崎津集落の登録を契機に、世界文化遺産を活用した広域的な観光誘客を推進する。また、菊池川流域や人吉・球磨の日本遺産を活かした広域連携による地域活性化の取組みに加え、八代市が誇る文化・伝統等の日本遺産認定への取組みを支援する。

阿蘇の草原再生を推進するとともに、ナショナルパークとしてふさわしい景観の再生、自然と調和したアクティビティの開発、地域のブランド力を高める宿泊施設の誘致等を進める。

また、阿蘇の世界遺産暫定一覧表入りを目指し、価値の明確化や機運醸成に取り組む。

県内プロスポーツチームの活躍を通じて、復旧・復興の姿を県内外に発信する。



熊本城 天守閣の復旧状況



阿蘇くじゅう国立公園



Bリーグ
オールスターゲーム開催
(H30年1月)

*ジャパンエコトラック：トレッキングや自転車等の人力による移動手段により、豊かな自然や地域の歴史・文化、人々との交流を楽しむ旅のスタイル。全国14エリアがルート認定を受け、統一されたデザインの公式マップにより、旅をサポートするルート情報や協力店等による受入態勢の情報等が紹介されている。